

第2回 大阪府大阪湾沿岸海岸保全基本計画審議会 議事要旨

日 時：令和7年3月25日（火）14：00～15：30

場 所：大阪港湾局 第8・9会議室

出席者：委員）重松委員（会長）・森委員・加藤委員・平山委員・岡委員・諏訪委員・塩見委員

まとめ

（1）気候変動検討部会の検討結果報告

事務局より、海岸保全基本計画変更の背景や現行の大阪湾沿岸海岸保全基本計画の概要を説明した（資料1）。また、気候変動検討部会の開催概要と部会における決定事項として、気候変動を考慮した台風・津波の防護水準や必要天端高を設定した結果を報告した（資料2）。

[主な意見]

- ・ 近日中に「日本の気候変動 2025」が公表される予定であるため、記載内容を最新のものに更新したほうが良い。

（2）海岸保全基本計画（変更原案）の提示

事務局より、気候変動を踏まえた計画変更のポイントと、海岸保全基本計画（変更原案）の概要を説明した（資料3）。

[主な意見]

- ・ 砂浜侵食について、海岸保全基本方針では、モニタリングを行ったうえで将来変化の予測に依拠して「順応的砂浜管理」を行うことが重要と記載されている。また、平均海面水位の上昇によって砂浜・干潟は現在よりも厳しい状況になっていく可能性がある。このような危機感を認識していることを示すとよい。
- ・ 砂浜の問題は海岸エリアだけではなく、流域の土砂管理の問題として、関係機関や周辺地域と連携して検討していく必要がある。
- ・ 海岸保全施設の整備にあたっては、面的防護の可能性をはじめ、環境・景観・利用面等の諸々の立地条件に配慮して各地先で対策を考えていってほしい。
- ・ インバウンド増加等の背景も踏まえ、地域に根付いた特徴ある歴史・文化、観光資源との調和にも十分配慮する必要がある。
- ・ 多段的な対策について、構造物の形状によっては、段階的に整備することがトータルでコストアップになることも考えられる。すなわち、経済的な観点から先行投資が優位となる場合もあるので、将来のコストも見越して柔軟な対策を検討していく必要がある。
- ・ 気候変動に関するモニタリングにおいて、台風の強大化については、確率的な要素があるため単純な計測では把握できないことを留意事項として示しておくとうい。
- ・ 平均海面水位をモニタリングするためには、潮位観測に加えて地盤高変動、特に潮位観測所付近の地盤高については継続的に監視していく必要がある。
- ・ 漁港施設においても、今後は同程度の安全性を確保するため、防波堤や岸壁の嵩上げも考えてもらいたい。

⇒ 委員からの意見を踏まえ、第3回審議会に向けて変更案の作成を行う。

主な確認事項、委員意見等（◇：委員）

（１）気候変動検討部会の検討結果報告

- ◇ 平均海面水位の上昇について、「日本の気候変動 2020」を出典としているが、近日中に「日本の気候変動 2025」が公表されるため、記載内容を最新のものに更新しておくほうがよい。

（２）海岸保全基本計画（変更原案）の提示

- ◇ これまでの侵食対策は、侵食傾向が確認されてから対策検討を行っており、対策が追い付かないことがあったが、令和２年の海岸保全基本方針ではあらかじめモニタリングを行ったうえで将来変化の予測に応じて「順応的砂浜管理」を行うということが追加された。海岸保全基本計画においても、この趣旨を反映した調査内容を追記した方がよい。
- ◇ 環境面において、平均海面水位の上昇によって砂浜・干潟は現在よりも厳しい状況になっていく可能性がある。このような危機感を認識していることを反映してはどうか。
- ◇ 砂浜の問題は海岸エリアだけではなく、流域の土砂管理の問題として、関係機関や周辺地域と連携して検討していく必要がある。
- ◇ 検討部会では防護面から堤防の高さを議論したものであるが、実際の整備にあたっては、面的防護の可能性をはじめ、環境・景観・利用面等の諸々の立地条件に配慮して各地先で対策を考えていってほしい。
- ◇ 近年のインバウンド増加に伴い大阪湾でも海外からの利用者が増加しており、地域に根付いた特徴ある歴史・文化が観光資源として重宝されている。海岸保全施設の整備にあたっては、このような観光資源、生活文化との調和にも十分配慮する必要がある。
- ◇ 海岸保全施設整備にあたって「多段的な対策も検討」とされているが、一般の人が見た際に「多段的」という表現がわかりづらい可能性がある。
- ◇ 多段的な対策について、構造物の形状によっては、段階的に整備することがトータルでコストアップになることも考えられる。すなわち、経済的な観点から先行投資が優位となる場合もあるので、将来のコストも見越して柔軟な対策をしていく必要がある。
- ◇ 気候変動に関するモニタリングにおいて、平均海面水位の上昇は潮位の継続的な計測でモニタリングできるが、台風の強大化については、確率的な要素があるため単純な計測では把握できないことを留意事項として示しておくとうい。
- ◇ 平均海面水位をモニタリングするためには、潮位観測に加えて地盤高の変動、特に潮位観測所付近の地盤高については継続的に監視していく必要がある。
- ◇ 港湾施設の岸壁と比べ、漁港施設の岸壁は古いものが多く天端高が低いため、高潮等による浸水が発生しやすい状況である。今後は同程度の安全性を確保するため、防波堤や岸壁の嵩上げも考えてもらいたい。